



# 大人気 ビリヤードレッスン場の ビリ検 活用術



# 『poche』 吉岡正登 MASATO YOSHIOKA

ビリヤード検定(ビリ検)で日本一の受検者数を誇るのは、大阪市にあるレッスン専用スタジオ『Poche(ポッシュ)』。地下鉄や阪急の駅から徒歩数分という好立地に、ビリヤードテーブル4台が置かれた清潔感あふれるスペース。講師を務めるのはJPBA所属の吉岡正登プロ。自身もトーナメントプロとして活躍中で実力は折り紙付き。そんなプロの丁寧なレッスンは定評があり、常時定員一杯の受講者を抱えて順調な運営が行われている。今回は人気レッスン場でビリ検がどのように活用されているのかを探るべく、特派員が現場を訪れて吉岡プロに話を伺った。



## 「楽しむ」×「目標設定」 ＝ビリ検活用

Pocheはレッスン専用スタジオ。空いているテーブルを使って練習ができるのは、レッスン生のみで、原則として一般客という存在はない。室内はとても綺麗で清潔感にあふれ、完全禁煙で空気もクリーンだ。レッスン生の多くはビギナーからCクラスでAクラスは全体の5%程度とのこと。これまでの業界スタンダードの『ビリヤード』とは大きく異なる印象だが、ここでビ

『Poche(ポッシュ)』  
代表 吉岡正登 (JPBA所属プロ)  
6年以上に渡ってレッスンを専門に行う、ビリヤードスクールの第一人者。昨年の2月にビリヤード用品を扱う老舗企業である株式会社日勝亭と協力関係を結んで拡張移転。現在は4台のテーブルを設置して、レッスン生は70～80人という目標定員値の範囲で推移を続ける。そして取材の日に申込があった新規会員で、Pocheのレッスン生は延べ300人に到達した。



ビリ検はレッスン場に  
おいて不可欠なツール

リヤードを覚えて趣味とする人が続々と誕生している現状は、ビリヤード場にとってもヒント満載の場所と言えそうだ。

レッスンは映像を用いて客観的に自身のフォームを分析するなど、専門家ならではのクオリティを保っている。受講生のプレーを見ると、総じて「キャリアに対して安定感が高い」という印象を受ける。これは「基本を覚えることが上達の近道」というスポーツの法則で考えれば納得のこと。

ただし、「楽しんでもらうことが最重要」というのが吉岡プロの掲げる指針。「プロを目指す、といった方であれば徹底的にフォームやストロークを固めるでしょうが、まずはビリヤードの面白さに触れてもらうこと」がPocheの指導における優先課題だとの

こと。

またPocheでは指導時に「押しつけ」や「決めつけ」をしない。これも吉岡プロの「正解は1つではない」というポリシーに沿ったもので、実際のレッスン中にも「Aという発想ですね。ではBという構想も試してみましょう」と、肩を並べて寄り添うスタンスで、指導というよりは意見交換をしているという感じだ。こうして受講者は実際に自分で試してみ、個々の技術や得手不得手も加味した上で、自身の選択を増やしていく。「スキルだけでなく、体格や性格も異なるので、求められるレッスンも皆違って当然だと思います」。こうした姿勢が多く受講生に支持される最大の要因であると窺えた。

そしてPocheでは現在、レッスン生を中心にJPBAにも参加していて、取材日の時点で6チームがホームチームとして活動している。吉岡プロ曰く「Pocheにおいてビリ検とJPBAは2大ツールで、入会された方にまずこの2つを紹介しています。中でも『まだ対戦は……』という初心者の方にとって、ビリ検が身近な目標設定として効果を発揮しています」。

目標設定。これがレッスン巧者である吉岡プロが、最重要視している項目

だという。特に初心者・初級者のレベルで、日々の上達を実感できることが大切なのだ。また「JPAもハンデ戦のチーム戦でモチベーションを高める効果があるのですが、スケジューリングに厳しいという方もおられるので、そういった人にもビリ検の存在は大きい」の他にも。

それでは人気レッスン場におけるビリ検活用方法を具体的に聞いてみよう。





ディジョンで難易度を変えていくので  
すね。他にはいかがでしょうか？

**吉** せっかく継続開催している検定なので、さらに付加価値を付けていってほしいですね。同一課題でスコアが出ているのだから、ビリ検の結果がクラス分けの線引きとして活用されても良いでしょうし、検定のスコアから例えば「ビリ検名人」が認定されても良いでしょう。ただ合格、不合格、に終わらせるのはもったいないと思います。

——確かに付加価値を付けて展開していくことができそうです。

**吉** 少し派生した話になりますが、プロテストのボウラードに僕から提案と  
いうか、思っているところがあります。それは以前に『キューズ』（2011年9月号）で紹介していた利川（章雲）プロ考案の『ナインヒットプール』というゲームがあります。あれは非常に良くできたゲームで、非常に練習にもなりますし、また実力を測るのに適しています。あれをアレンジした『ナインヒットボウラード』。それもワンクッション限定とか、シュートをした後の手球に制約を設けたら、かなり手球のコントロールを覚えるのに役立ちます。そんなゲームをビリ検と併用してプロテストに取り入れたら、受検対策をしている段階でレベルも上がっ

て、全体に良い影響を及ぼすと思いま  
す。

——それは新しい目線ですね。逆に言  
えば、ビリ検に取り入れたら、より実  
力を測る精度も高めて、しかも練習課  
題として優れたものになりそうです。

**吉** 上達を実感することの大切さは初  
心者や初級者だけの話ではありません  
し、中級者や上級者と言われる人にも  
成長が止まってしまったり、上達を実  
感しにくくなる時期があります。そう  
した時はモチベーションも下がってし  
まいがちですし、今一度自身のプレー  
を見直したり、上達を実感できる機会  
になれば良いな、と思います。

——今日は有意義なお話をありがとうございます。今日  
はありがとうございました。

**吉** こちらこそありがとうございます。ま  
す。ビリヤードを始めて楽しさを覚え  
る段階で、より深く知って上達してい  
く過程で、様々な場面でビリ検は役  
立つツールです。もっと多くのビリ  
ヤード場で開催されると良い効果が出  
てくると思います。ぜひ今後もブラッ  
シュアップを続けて、ビリヤードをよ  
り大勢の人に楽しんでもらえること  
を祈っています。僕も検定の際には意見  
や要望などをアンケートで出していき  
ますので、進化を続けてより良いビリ  
検となっていくことを願っています。



吉岡正登が思う  
ビリ検構想

——まず吉岡プロにとってビリ検とは  
どのような存在でしょうか？

**吉岡プロ**（以下、吉） 僕がレッス  
ンを行う上で欠かすことができない、ビ  
リヤードの実力を可視化できる貴重な  
ツールです。検定のような存在の必要  
性を以前から感じていたので、もしビ  
リ検がなかったら、自分で作っていた  
と思います。

——ビリ検はレッスン場において不可  
欠なツールだと？

**吉** 間違いありません。どんな趣味や  
お稽古ごとでも、「できない」が「で  
きる」に変わる達成感が喜びで励みに  
なりますよね？ 僕もレッスンを始め  
て気付いたのですが、「ビリヤードは  
難しすぎる」んです。ナインボールを  
普通にゲームとして楽しめるレベルに  
なるまでは時間が掛かります。そこで  
簡単な配置のボールをシュートできる  
成功率が2割から8割に上がる。そん  
な「大きな」上達を相応に実感できる  
機会として、ビリ検のような指針が重  
要になってきます。

——なるほど。確かにビリヤード⇔対  
戦形式のゲームだとすると難しいです  
ね。

**吉** 僕も20年のキャリアを経てまだま  
だ日々気付くことが沢山あります。そ  
の奥深さも魅力なのですが、初心者の  
方にも日々の上達を実感してもらわな  
いと楽しく続けることができません。  
上級者の多くは週に5日とか毎日のよ  
うに撞き込んだ時期があったと思いま  
すが、社会人の趣味としてそんなに時  
間を割ける人はいません。この点は業  
界の常識が社会の非常識だなど（笑）。

——実際に受検される方の傾向などあ  
りますか？

**吉** 基本的に初心者から上級者の方  
で推奨しているので、ウチでは幅広い

受検者層となっています。ただしレッ  
ス生の半数以上がCクラス以下な  
ので、そういう配分になっていると思  
います。あと、Cクラスの人がBク  
ラス課題を、Bクラスの人がAク  
ラス課題をといったように、それぞれ1  
つ上のクラスを受検しています。

——さて、ビリ検は1年に2回ですが、  
この回数についてはいかがでしょう？

**吉** 検定の試験としてはちょうど良い  
間隔の開催じゃないでしょうか？ 僕  
のところではレッスンの課題としても  
ビリ検の課題を使っているの、日々  
の練習課題として、教材としても活用  
させてもらっていて、とてもありがた  
い存在です。あと、検定として行う以  
上は、更なるオフィシャル化を希望し  
ます。

——オフィシャル化とはどういう感  
じでしょうか？

**吉** まず受検環境についてですが、  
ホームで受検するテストというのはど  
うなんだろう？ と思います。多くの  
試験は定められた会場に向いて受検  
をします。これはビリヤードも同様で、  
慣れ親しんだホームテーブルで受検す  
るとするのは一考の余地があるでしょ  
う。またホーム、アウェイに関わらず  
ビリヤードはテーブルコンディショ  
ンの影響を受けるので、ポケットサイ

やクッションの出具合、ラシャの転が  
り具合などにも基準範囲を設けるのが  
良いと思います。

——なるほど！ ぜひこの機会にご要  
望ご意見をお願いします。

**吉** ビリ検は初心者や初級者の練習課  
題として、上達のバロメーターを測る  
のに適していますが、これは上級者に  
とっても同じだと思っています。正直、  
プロもやった方が良いでしょうし、  
プロテストにも採用してもより実力を  
数値化することが可能になるかと。そ  
してA級、S級、プロ級と同じ課題  
でテーブルの難易度を上げていくのも  
アリだと思います。

——上級者以上には同一課題のコン

て、全体に良い影響を及ぼすと思いま  
す。

——それは新しい目線ですね。逆に言  
えば、ビリ検に取り入れたら、より実  
力を測る精度も高めて、しかも練習課  
題として優れたものになりそうです。

**吉** 上達を実感することの大切さは初  
心者や初級者だけの話ではありません  
し、中級者や上級者と言われる人にも  
成長が止まってしまったり、上達を実  
感しにくくなる時期があります。そう  
した時はモチベーションも下がってし  
まいがちですし、今一度自身のプレー  
を見直したり、上達を実感できる機会  
になれば良いな、と思います。

——今日は有意義なお話をありがとうございます。今日  
はありがとうございました。

**吉** こちらこそありがとうございます。ま  
す。ビリヤードを始めて楽しさを覚え  
る段階で、より深く知って上達してい  
く過程で、様々な場面でビリ検は役  
立つツールです。もっと多くのビリ  
ヤード場で開催されると良い効果が出  
てくると思います。ぜひ今後もブラッ  
シュアップを続けて、ビリヤードをよ  
り大勢の人に楽しんでもらえること  
を祈っています。僕も検定の際には意見  
や要望などをアンケートで出していき  
ますので、進化を続けてより良いビリ  
検となっていくことを願っています。

木村恭一さん  
受講歴半年

ビリヤード場でPocheの存在を教えても  
らい、体験受講してすぐに通うようになり  
ました。昔に我流でやっていたので、ここ  
で習うことは良いことしかありません。芯  
撞きでさえ間違えていたことに気付き、基  
本を教わる大切さを知り感謝しています。



取材に協力頂いた受講生を直撃！

小保川澄香さん  
受講歴1年少々

主人が学生時代にビリヤードをしていた  
ので、私が始めると言ったら主人も復帰  
しました。ここでイチからビリヤードを教  
わり、レッスンも楽しいですし、色んな大  
会なども紹介してもらい、JPAにも参加し  
てどんどのめり込んでいます。

